

# 上御殿遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 24(2012) 年 11 月 23 日(祝)／公益財団法人滋賀県文化財保護協会



## 調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、平成 20 年度より、高島市の天神畠遺跡（鴨地先）と上御殿遺跡（三尾里地先）の発掘調査を行っています。調査は、滋賀県教育委員会と滋賀県高島土木事務所からの依頼により鴨川広域基幹河川改修事業（青井川）に伴って行っています。

平成 24 年度の調査は、4 月から実施しており、これまでに古墳時代前期の竪穴住居、古墳時代後期の溝、奈良～平安時代初頭の居宅や倉庫群、平安時代の掘立柱建物、古墳～平安時代の川跡などを確認することができました。

なかでも、川跡の調査では、奈良～平安時代初頭の人形代や斎串、陽物形代などといった祭祀遺物が出土し、当時の生活をうかがうことができる貴重な成果が得られました。



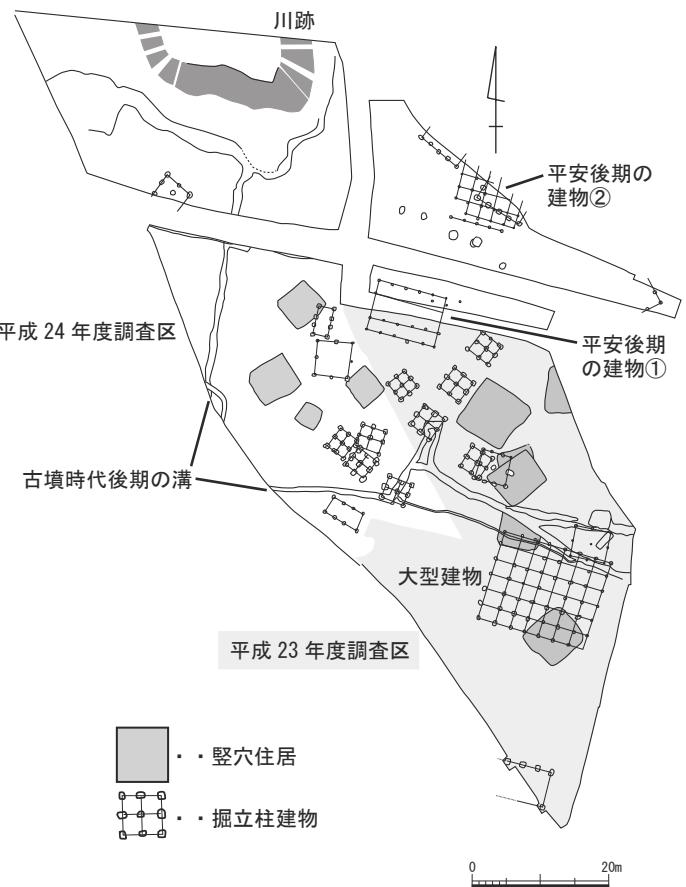
年代	時代区分	日本の主な出来事	天神畠・上御殿遺跡の主な調査成果
B.C.500年 300年 600年 700年 800年 1200年 1300年 1500年 1600年	縄文		縄文時代中期後半(4000年前) 土器棺墓
	弥生	約 2500 年前 稲作始まる。 248 年頃 卑弥呼死す。	弥生時代終末(3世紀前半) 方形周溝墓
	古墳	前方後円墳が各地にさかんに築造される。鴨稻荷山古墳(500年) 6C初 繼体大王 �即位	古墳時代前期(4世紀後半) 竪穴住居 古墳時代前期～中期前半(4～5世紀前半) 木棺墓
	飛鳥	604 年 憲法十七条の制定。 645 年 大化の革新(乙巳の変)。	古墳時代後期(6世紀後半) の溝
	奈良	667 年 近江大津宮へ遷都。 710 年 平城京へ遷都。	
	平安	742 年 紫香楽に離宮を造る。 794 年 平安京へ遷都。	奈良～平安時代初頭(8世紀～9世紀前半) 居宅・倉庫群 祭祀遺物
	鎌倉	1016 年 藤原道長が摂政となる。	平安時代後期(10～11世紀) 掘立柱建物など
	室町	1192 年 源頼朝が征夷大將軍となる。	平安時代後期～鎌倉時代初期 馬具(轡:くつわ)
	安土桃山	1336 年 足利尊氏が征夷大將軍となる。	室町時代後期(15・16世紀) こけら経
	江戸	1576 年 織田信長、安土城に移る。 1582 年 本能寺の変。 1600 年 関ヶ原の戦。	
※ナナメ文字は、平成 20～23 年度の主な調査成果			1615 年 大坂夏の陣。 一国一城令。

## 平成 24 年度に確認した主な遺構

- ①古墳時代前期(約 1700 年前)の竪穴住居 4 棟
- ②古墳時代後期(約 1500 年前)の溝 2 条
- ④奈良時代後半～平安時代初頭(約 1200 年前)の  
居宅 2 棟・倉庫 4 棟
- ⑤平安時代後期(約 1000 年前)の掘立柱建物 2 棟
- ⑥古墳時代～平安時代の川跡

今年度の調査では、昨年度に確認した古墳～平安時代の集落が西側に広がることや、北西側に川が流れていることを確認できました。

竪穴住居は、これまでに 10 棟確認しています。古墳時代の溝は、何處か屈曲しつつ東西に延びる部分と川跡から南北に延びる部分を確認しました。二つの溝はつながって L 字状になる可能性があり、区画を示すような性格が考えられます。平安時代後期の掘立柱建物 2 棟は、大型建物よりは規模が小さいものの、東西 5 間の比較的大きな建物で居宅と考えられ、方位をあわせて建てられたそれらの建物からは、当時の屋敷地のあり方がうかがえます。川跡の中では、奈良時代～平安時代初頭の祭祀跡(1～3)を確認しました。



## 奈良～平安時代初頭の調査成果

### ①倉庫群と居宅

倉庫群の建物は、これまでに 9 棟確認することができました。重複や近接している 3 棟(掘立 13～15)は、建て替えられたとみられます。このことから、継続的に営まれた倉庫群であったと考えられます。居宅の建物は、倉庫群からやや離れた北側に並んでみつかりました。南北の大きさは不明ですが、東西はいずれも 4 間の規模があり、建物の方位からは、倉庫群との規格性のある配置が認められます。

このような倉庫群をもつ施設は、同じ高島市内の遺跡でも確認されていますが、いずれも役所やそれに付属する倉庫といった公的な性格の遺跡です。この遺跡の性格を考えるうえで重要な成果といえます。



## ②水辺の祭祀跡

古墳時代の川が埋没した部分を、奈良時代から平安時代の川が蛇行しつつ流れています。川の規模は、幅約4m・深さ約2.2mで、幅15m以上ある古墳時代の川に比べ細くなっています。この川の底で、祭祀を示す遺構や遺物を3カ所で確認することができました。

### 水辺の祭祀1

川が大きく屈曲する部分の底に、人頭大の石材とともに須恵器の壺が置かれていたことがわかりました。須恵器の壺は口縁を打ち欠いており、内外面の一部は真っ黒になったスヌ状の付着物がついていることから、火にかけられたとみられます。具体的には不明ですが、日常容器を使えなくしていることや、煮炊きに使用しない須恵器の壺を火にかけていることは、何らかの祭儀にともなうものである可能性があります。



須恵器壺

### 水辺の祭祀2・3

祭祀2の地点では、人形代(ひとかたしろ)2点・斎串(いぐし)1点・陽物形代(ようもつかたしろ)1点が出土しました。また、祭祀3の地点では人形代4点・斎串2点が出土しています。

人形代や斎串は、薄い板を加工して造られたものです。人形代は切り込みによって、頭や手、足を作りだしています。斎串は、下端を尖らせた串状の木製品です。陽物形代は、先端を削り両側に切り込みをいたしたもので、男性の生殖器を表現しています。



祭祀2で出土した斎串・陽物形代

斎串は、上端を山形にし、両側を斜めに切り落としています。祭祀の場所を区画する結界や、神をまねく依代(よりしろ)として使用されたと考えられています。

陽物形代は、井戸から出土することが多く、きれいな水を願ったものと考えられています。

左：斎串  
長さ17.5cm・幅1.7cm  
厚さ約2mm

右：陽物形代  
長さ11cm以上・幅3.3cm・厚さ3.1cm



## 人形代

人形代は、祭祀2で2点、祭祀3で4点出土しています。祭祀2のものは、墨によって顔や胸が表現されています。祭祀3のものは、頭や足の表現に違いがあり、長さも様々です。墨による顔などの表現はありません。人形代は、病気が治ることを祈るときや、他人を呪うとき、自分の穢れや罪を祓うときなどに使用されました。川の中から出土していることから、人形代に息をふきかけたり、さすったりして病気や穢れを背負わせたのち、清浄な川に流し清めたと考えられます。

このような道具を使った祭祀は、当時の都や地方の役所などで行われている儀礼です。高島市内では、上御殿遺跡のほか、旧高島町の鴨遺跡（人形代・陽物形代・斎串）・永田遺跡（陽物形代・斎串）、新旭町の針江北遺跡（人形代）、今津町の日置前遺跡（斎串）で出土しています。これらの遺跡は公的な性格が多く、近くに所在する鴨遺跡や永田遺跡との関係は特に注目されます。この周辺には港（勝野津）や主要街道（北陸道）があり、北陸と畿内を結ぶ交通の要衝でした。居宅や倉庫群がみつかった上御殿遺跡は、鴨遺跡や永田遺跡と同様の祭祀が行われていることからも、交通の要衝に所在する公的な性格の遺跡であると考えられます。奈良・平安時代において、高島郡におけるこの地域の重要性を示す遺跡のひとつといえます。

